

学生の確保の見通し等を記載した書類 目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
① 学生の確保の見通し.....	2
② 学生確保に向けた具体的な取組状況.....	5
(2) 人材需要の動向等社会の要請	6
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	6
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠（資料2）	6

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

宮崎国際大学大学院国際教養研究科国際教養学専攻(修士課程)の募集人数は5名である。選抜試験の対象となる者は以下の通りで、数字は応募者の見込みである。

1) 学内進学者

本学の国際教養学部および教育学部を卒業した者1～3名が見込まれる。

2) 社会人

県内外の企業や公共団体等に在職する社会人がリカレント教育の一環として応募する。但し、4年制(あるいは6年制)大学を卒業した者1～3名が見込まれる。

3) 外国からの留学生

国内の4年制大学を卒業した外国人留学生、あるいは国外の4年制(あるいは5年制)大学を卒業した外国人学生を留学生として募集した場合、(なお、連携大学からの留学生は優先する)1～2名が見込まれる。

4) 他大学卒業者

本学以外の国内4年制、あるいは6年制大学を卒業した者を募集した場合1～2名が見込まれる。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要(資料1)

上記の客観的なデータは、在学生、社会人、および長期的な見通しを得るため高校生に対して行ったアンケート調査の分析結果であり、それを基に定員充足を推定した。アンケート調査については以下に説明する。

1) 学内進学者の見込みを知るために、在学生に関して本学国際教養学部の1～3年生(4年生は設置年度に間に合わないため対象外とした)、および教育学部の1～3年生を対象にアンケート調査を実施し、367名から回答を得た。

本学に大学院(修士課程)が無いために、他大学の大学院進学を希望している学生がいたことは以前から把握できていた。今回のアンケートの間6「他大学の大学院進学を考えたことがあるか」の問いに対しても、20%以上が「ある」と答えている。ところで、今回、本学に大学院修士課程を設置した場合、学生はどのように思うかをアンケート調査で調べた結果、国際教養学部および教育学部の学生の40%以上が「設置して欲しい」との回答であった。一方で、「設置の必要は無い」と答えたのは10%未満であった。特に重要な質問と考えられる問3の「設置した場合に進学したいと思うか」については、国際教養学部で7%、教育学部で4%が「ぜひ進学したい」と回答しており、これを実数で表すと、各学年に国際教

養学部では7～8名、教育学部で2名が進学することになる。さらに、両学部ともに25%近くの学生は「条件が合えば進学したい」と回答している。その条件とは、経済的な問題が圧倒的に多く、次に学力や能力を挙げている。大学院へ進学した場合、国際言語学コースと国際文化学コースのどちらを選択するかについては、両学部とも半々であった。

以上の結果から、もし宮崎国際大学に大学院修士課程が設置された場合、進学する可能性のある学生は4～7%（各学年で9～10名程度）存在すると考えられる。しかし、このアンケートは、1～3年生を対象にしたものであり、4年次になった時に、進学の意味が継続しているかは保証できないが、少なくとも数名は見込めると推測している。現在の、国際教養学部の学生の専門性が明確でないリベラルアーツ教育では、修士に進学してより専門的な教育を受けたいと思っている学生が多いようだ。いずれにせよ、このアンケート調査結果から、修士課程が設置された場合の学生確保については、在学生だけでも充足できる可能性が推測できる。また、経済的問題への配慮として、本学の卒業生が進学する場合には入学金は免除し、また、企業からの奨学金制度（現在学部生に給付している企業からの寄付による未来奨学金）等を活用して、経済的援助を行う仕組み等を構築すれば、さらに進学希望者を増やせる可能性は高い。

2) 社会人においては、本学と連携協定を締結している市町村、銀行、商工会議所連合会、および高校教員を対象に行い、約200名から回答を得た。

まず、修士課程の設置の趣旨にある「グローバル社会の多様性を尊重し、多様な人種が共存して豊かな国際社会を築くことに貢献できる人材育成を目標とした修士課程」については80%近くが設置の必要性を認めていた。宮崎国際大学にこのような修士課程を設置することに関しては、50～67%が設置を望んでいた。また本学のこの修士課程に興味があると答えたのは40～56%であり、多くの社会人が興味を持っていると思われた。一方で、設置された場合に、問5の「社会人として入学したいか」との問いに対しては、「ぜひ入学したい」と回答した人は、わずかに1%で、高校英語教員ではゼロであった。しかし、「条件が合えば入学したい」と回答した人が一般社会人で12%、高校英語教員で28%もいた。これは驚くべき数と思われる。問6「入学したいけどできないと思われる理由」を質問すると、仕事との両立が難しいが圧倒的に多く、次いで経済的問題や年齢などが挙げられた。

社会人として、修士課程を卒業するメリットを尋ねた質問に対しては、一般社会人の回答は多方面（国際感覚が身に付く、言語力が向上する、転職ができる、学位が得られるなど）に同等の比率で分散した結果となったが、高校英語教員の回答は職業に活かせる、国際的感覚が身に付く、学位が得られる、の順に多かった。

以上の結果から、一般社会人あるいは高校英語教員の多くが、本学の修士課程設置に理解や希望を示しており、入学に関しても、条件が合えば入学したい人が 10%以上存在していることが判明した。この条件とは、仕事との両立が難しいと言うものである。通常、多くの大学院が社会人の受け入れを行っているが、仕事との両立が支障となり途中退学者が多いことも事実である。もちろん本学も、長期履修制度や夜間受講制度などを導入する予定ではあるが、社会人個人に対応したカリキュラムを構築することが最も効果的と思われる。多くの社会人を多くの教員で教育する大規模大学院では、この個別対応教育カリキュラム作成は無理と思われるが、本学のような小規模大学院では、少人数の社会人に対して個別対応教育が可能になると思われる。例えば、講義日程を調整して、土曜日に集中で授業を行うこと等が可能になるからである。また、オンラインによる遠隔講義や、オンデマンドシステムを導入することで、社会人の受け入れも容易になると思われる。修士論文の作成についても、オンラインを利用した指導ができると推測している。恐らく、条件に合う形にすれば、社会人の入学者はある程度確保できると考えている。すでに、宮崎学園短期大学幼児教育担当教員（ほとんどが学士卒）の大多数が、本学の修士課程の設置を願っていることを耳にしている。

3) 長期的に学生確保が見通せるかどうかの一つの指標として、本学と姉妹校である宮崎学園高等学校、および宮崎県立高等学校 3 校の計 4 校を対象にアンケート調査を行った。対象とした学生はすべて 3 年生である。その結果、県立高校および私立高校ともに約 10%程度が大学院に興味を有していた。また、大学を選ぶときにどのような大学院があるかどうかを参考にする学生が 25%近くいることが判明した。グローバル社会に対応した教育を行う修士課程設置に対しては、60%以上の学生が必要と答えている。さらに、本学におけるそのような修士課程設置に対しても、40%前後の学生が設置した方が良いと答えた。また、本学に修士課程が設置された場合には本学への入学を希望するか、との問いに対しては、ぜひ入学したいは 1～3%（実質人数では 6～18 名）であったが、条件が合えば入学したいと答えた学生が 10%（60 名）程度いた。以上の結果から、宮崎市内の進学校である県立、私立高等学校の 3 年生は、本学の大学院修士課程設置の必要性に理解を示しており、また、高校生の多くがどのような大学院があるかを大学入学時の参考にしていることがうかがえた。

4) 外国からの留学生

本学の国際教養学部（定員 100 名）には毎年 20 名前後の留学生が入学するが、昨年と本年は新型コロナウイルスの影響を受けて、留学生数は一桁に激減した。そのため、留学生へのアンケート調査は行わなかったが、2021（令和 3）年に他大学の大学院へ進学が決定してい

る留学生が2名いたため、口頭で「本学に修士課程があれば、本学に進学していたか」と質問した結果、両者から「Yes」との回答を得た。単純に計算すると、1～2名の留学生は、本学に大学院が設置されれば進学する可能性は見込める。

ウ. 学生納付金の設定の考え方

全国の私立大学文系大学院（修士課程）に関して平均入学金、授業料、施設設備費を調べた。また、近隣の私立（文系）大学大学院（南九州大学大学院修士課程、九州産業大学大学院博士前期課程）の学生納付金を調べた。それらの結果、各大学の大学院（修士課程）の納付金は、学部での納付金と大差が無いことが判明した。以上を根拠として、本学修士課程の学生納付金を設定した。本学の学部での納付金が近隣の私立大学よりやや高額なため、結果的に大学院納付金の金額もやや高額になったが、全国私立大学の平均よりは低額であった。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

ア. 大学院説明会の実施と個別指導

文部科学省からの指示を頂き、許容できる表現や時期を考慮して、学内の学部生を対象に大学院生募集に係る大学院説明会を開催する。本学が大学院修士課程の設置を企画していることはすでに多くの在学生在がアンケート調査等でも知っており、現在もその点を確認してくる学生が数名いる。オリエンテーション（4月、9月）時の他、進路相談時間などを利用して、個々の質問に応じる体制を取る。

イ. 大学ホームページ等を活用した広報活動、マスコミによる情報提供

上記と同様に、大学案内冊子での予告（許容できる表現や時期を考慮して）や、大学のホームページおよび地域のメディア（テレビ、新聞等）を利用して広報活動を行う。また、本学と連携協定を締結している企業、団体をはじめ、小中高校の教員、あるいは宮崎学園短期大学の教員などに的を絞った広報活動も実施する。

ウ. 留学生確保のための取組み

毎年日本学生支援機構が主催し、海外で開催される「日本留学フェア」及び国内で開催される「留学生のための進学説明会」において概要を説明する。大学間連携協定を締結している大学、さらには国際教養学部の学生に海外研修プログラム（必修）を提供している5か国15大学への広報活動を行い、留学生を募集する。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

宮崎国際大学大学院国際教養研究科は本学の建学の精神に則り、グローバル社会の多様性を尊重し、多様な人種が共存して豊かな国際社会を築くことに貢献できる人材育成を目的にしている。さらに、地域社会からの要請にも応じられるよう、特に言語と国際文化・社会に関する教育を通して、以下に掲げる能力を身につけた高度な専門的職業人を育成することを目的にする。

本学の国際教養学部はリベラルアーツ教育を基本とした建学時の理念を現在も残しており、その理念は大学院修士課程でも受け継がれる。このリベラルアーツ教育は豊かな教養と高度な国際性を身に付けるうえで有益なものと考えている。また、英語教育の専門性をさらに向上させるための専門的知識や研究能力の涵養も、学生が主体的に課題を探求し解決する能力を養う上で必要と思われる。さらに、国際教養学部と教育学部の両学部生にとって、英語によるより高度なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の涵養も、本修士課程での大きな目標となる。このような様々な能力を身に付けることで、複雑なグローバル社会の要請に応えられる人材が育成されると思われる。

本研究科修士課程は、国際言語学コースと国際文化学コースの2つのコースの設置を予定しており、それぞれの育成する人材像（ディプロマ・ポリシー）は以下のとおりである。

(ア) 国際言語学コースは、高度な国際言語力（特に英語力、中国語力）を身に付け、グローバル社会で確実なコミュニケーション能力を有する人材、高度な国際言語力マインドに裏打ちされた質の高い、総合的判断力に優れた能力を有する人材、および国際的に様々な交渉現場で、客観的思考力や高度な推理・判断力を有する人材の育成をディプロマ・ポリシーとする。

(イ) 国際文化学コースは、国の文化の多様性を客観的に見つけ、それぞれの特徴を的確に判断できる能力や多文化・異文化に関する知識を有する人材の育成、国際的な問題に真剣に取り組むことができる人材育成、国際社会のワーキングの仕組みを認識し理解することができる人材および高度なコミュニケーション能力を有する人材の養成をディプロマ・ポリシーとする。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠（資料2）

我が国のグローバル人材育成の必要性は様々な分野において以前から検討されてきた。例えば、文部科学省では「産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会（2010（平成22）年）」「産学連携によるグローバル人材育成推進会議（2011（平成23）年）」他、

また内閣官房での「グローバル人材育成推進会議（2012（平成24）年）」などが挙げられる。中でも、文部科学国立教育政策研究所・JICA 地球ひろば共同プロジェクトが2014（平成26）年3月に最終報告として出した「グローバル化時代の国際教育のありかた国際比較調査」においては、グローバル人材育成に求められる資質、能力、あるいは各国におけるグローバル人材育成教育の比較など、多方面からの分析結果が報告されている（資料2-1 抜粋資料）。

一方で、本学が立地する宮崎県では、世界の国・地域との経済をはじめとする多様な分野における交流や、地域社会における外国人との共生など、グローバルな視点から取り組むべき施策を本県の重要施策の一つと位置づけ、関係機関・団体等と連携・協働し、総合的かつ計画的に推進していくため、『みやざきグローバル戦略』と『みやざき国際化推進プラン』を統合した『みやざきグローバルプラン』を2019（令和元）年6月に策定している（資料2-2 抜粋資料）。

このように、グローバル人材育成は国、県、市町村において産業分野や教育分野他、多くの分野で要望されてきた。本学は、宮崎国際大学と言う名称が示す様に、設立当初からグローバル人材の育成を目指す大学として歩んで来た。本学の特色や、2021（令和3）年度活動の主な幾つかを挙げると以下の様にまとめられる。

- ・外国人教員の占める割合が全国1～2位であり、世界大学ランキング（英国 タイムズ・ハイヤー・エデュケーションの THE 世界大学ランキング 2021）の国際性分野で国内8位である。
- ・学部教育はすべて CLIL 教育（ほぼすべての授業が英語で行われる）であり、進級条件には TOEIC の点数が設定されている。
- ・県内中学校・高等学校から毎年500名以上の生徒を受け入れ、異文化体験、English Day、体験授業などを行い、英語による様々な教育支援を実施している（資料2-3）。
- ・県内産業界との連携協定により、企業職員を対象にした英語指導研修等の活動を行っている。
- ・そのために、県内の主な企業（宮崎銀行、宮崎太陽銀行、JAL、ANA、ソラシドエア）、商業界、ホテル・リゾート等の観光業界、宮崎放送、工業界（日機装株式会社）等の代表取締役、社長、会頭等からの激励メッセージが寄せられ、ホームページに掲載されている（<https://www.mic.ac.jp/student/gekirei>）。また、企業から学生へ未来奨学金（資料2-4）が給付されている。
- ・海外進出企業からの求人が多く、その分野への就職も多い。
- ・英語の中・高教諭養成のみならず、英語ができる小学校教諭の育成に力を入れており、教員採用率は86.9%と全国でもトップクラスにある（資料2-5）。

このように、本学は学部での国際教育のみならず、外部の組織や中高生に対して、グローバル化に必要な語学支援や異文化理解の支援を行って来た。今回申請する国際教養研究科（修士課程）の設置は、さらに高度な国際感覚や国際コミュニケーション能力を有した人材育成を目的にしており、「社会的、地域的な人材需要の動向等」にマッチングしていると思われる。この修士課程は、産業・経済界をはじめ、様々な分野でのグローバル人材養成の要望に応えるものである。

学生の確保の見通し等を記載した書類【資料集】

目次

資料 1-1	アンケート調査.....	2
資料 1-2	アンケート調査の集計結果.....	8
資料 2-1	文部科学省国立教育政策研究所・JICA 地球ひろば共同プロジェクト グローバル化時代の国際教育のあり方国際比較調査報告書からの抜粋.....	23
資料 2-2	宮崎県のグローバルプラン.....	29
資料 2-3	2021 年度 本学の中・高校生対象の CLIL 教育実績.....	30
資料 2-4	県内企業からの本学学生への奨学金制度（返還不要）.....	34
資料 2-5	2021 年度 宮崎国際大学教育学部の小学校教諭採用実績.....	35

資料 1 - 1

アンケート調査

(1) 在学生へのアンケート調査

アンケート調査へのご協力依頼（在学生用） 無記名でお願い

趣旨説明

文部科学省では、世界のグローバル化に伴い、多様化する経済、社会、国際的問題に対応するため、「グローバル化社会に対応する大学院教育」を求めています。創立 27 年を迎えた宮崎国際大学は 2021 年世界大学ランキングの国内大学ランキングにおいて、国際性部門で全国 8 位と非常に名誉な結果となりました。しかし、残念なことに大学院が設置されておらず、このままでは国の要望に応えることができません。世界のグローバル化に伴い、県内産業界の海外進出はもとより、様々な国際的問題（環境問題や食料問題他）等に対応する外国語（特に英語）コミュニケーション力の高い人材の養成が早急に求められています。また、高度な言語能力を有して、英語の教育者育成に貢献できる人材育成も求められています。本学にはこのような人材育成を可能にできる基盤が備わっていますので、大学院修士課程の設置に向けた行動を開始したいと思っています。

本アンケートは、本学の大学院修士課程（国際言語学コースと国際文化学コース；いずれも仮称です）の設置に向けて、在学生の皆様の意見をお伺いしたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願い致します。

以下の質問にお答えください（当てはまる番号に○をしてください）

問 1. あなたは国際教養学部、教育学部のどちらの学部の何年生ですか？

- 国際教養学部 ① 1 年生 ② 2 年生 ③ 3 年生 ④ 4 年生
教育学部 ⑤ 1 年生 ⑥ 2 年生 ⑦ 3 年生 ⑧ 4 年生

問 2. 大学院修士課程の設置についてどう思いますか

- ①ぜひ設置して欲しい ②できれば設置して欲しい ③どちらとも言えない
④設置の必要は無い ⑤その他（ ）

問 3. 大学院修士課程が設置された場合、進学したいと思いますか

- ①ぜひ進学したい ②条件が合えば進学したい ③今はわからない
④進学する予定はない ⑤その他（ ）

①、②、③を選んだ人は、裏ページの間 8 にも答えてください

問 4. 進学したいけど、進学できないと思った方は、何が問題ですか

- ①経済的理由 ②学力、能力 ③周囲の理解 ④年齢 ⑤その他（ ）

問 5. 大学院修士課程設置計画の説明会の開催を望みますか

(2) 社会人へのアンケート調査

アンケート調査へのご協力依頼 (社会人用) 無記名でお願い

趣旨説明

文部科学省では、世界のグローバル化に伴い、多様化する経済、社会、国際的問題に対応するため、「グローバル化社会に対応する大学院教育」を求めています。創立 27 年を迎えた宮崎国際大学は 2021 年世界大学ランキングの国内大学ランキングにおいて、国際性部門で全国 8 位と非常に名誉な結果となりました。しかし、残念なことに大学院が設置されておらず、このままでは国の要望に応えることができません。世界のグローバル化に伴い、県内経済・産業界の海外進出はもとより、様々な国際的問題（環境問題や食料問題他）等に対応する外国語（特に英語）コミュニケーション力の高い人材の養成が早急に求められています。また、高度な言語能力を有して、英語の教育者育成に貢献できる人材育成も求められています。本学にはこのような人材育成を可能にする基盤が備わっていますので、大学院修士課程の設置に向けた行動を開始したいと思っています。

本アンケートは、宮崎国際大学の大学院修士課程（国際言語学コースと国際文化学コース；いずれも仮称です）の設置に向けて、県内の社会人の皆様のご意見をお伺いしたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願い致します。

尚、今回設置予定の大学院修士課程には、国際言語学コースと国際文化学コースの 2 つのコース（いずれも仮称）を設けることを考えています。それぞれのコースの概要は以下の通りです。

国際言語学コース：現代のグローバル社会や地域社会では政治/経済/産業のあらゆる分野で交渉や高度なコミュニケーション能力が必要とされています。そのような交渉現場では、コミュニケーション能力だけでは不十分で、客観的思考力や高度な推理・判断力が求められます。このコースでは、高度な英語力・マインドに裏打ちされた質の高い、総合的判断力に優れた人材を養成するためのものです。また、英語の教育者育成や教育現場で貢献できる人材も養成します。

国際文化学コース：グローバル化によって多くの国際的な課題が見えて来ました。例えば文化の違いによる国際紛争、ジェンダークラス格差問題、地球温暖化、ごみ廃棄問題、地球環境問題 他、様々です。他国の文化の多様性を客観的に見つめ、それぞれの長所短所を的確に判断でき、多国語でコミュニケーションが可能な能力を有する人材を養成するためのコースです。

以下の質問にお答えください（当てはまる番号に○をしてください）

問 1. あなたの職業は次のどれに相当しますか

- ①教育関係 ②経済界 ③製造・生産業界 ④観光業界 ⑤サービス・ホテル業界
⑥航空業界 ⑦行政関係 ⑧マスコミ・情報業界 ⑨その他の職業（ ）
⑩わからない

問2. 上記の趣旨説明を読んで、このようなグローバル社会に対応するための大学院教育を行う必要性をどう思いますか

- ①非常に必要と思う ②必要と思う ③どちらとも言えない ④あまり必要とは思わない ⑤その他 ()

問3. 宮崎国際大学の大学院修士課程の設置についてどう思いますか

- ①ぜひ設置して欲しい ②できれば設置して欲しい ③どちらとも言えない
④設置の必要は無い ⑤その他 ()

問4. 大学院修士課程が設置された場合、社会人の受け入れが可能となります。あなたは、この大学院修士課程に興味がありますか

- ①非常に興味がある ②どちらかと言えば興味がある ③どちらとも言えない
④あまり興味はない ⑤全く興味はない

問5. この大学院修士課程が設置された場合、社会人として入学したいと思いますか

- ①ぜひ入学したい ②条件が合えば入学したい ③今はわからない
④入学する予定はない ⑤その他 ()

問6. 入学したいけど、入学できないと思われる方は、何が問題ですか

- ①経済的理由 ②学力、能力 ③周囲の理解 ④年齢 ⑤仕事との両立
⑥その他 ()

問7. この大学院修士課程を卒業した場合、どのようなメリットがあると考えられますか(複数回答可)

- ①職業に生かせる ②語学が上達する ③国際的感覚が身に付く
④新たな職業に転換できる ⑤学位が得られる ⑥その他 ()

問8. 大学院修士課程設置計画の説明会の開催を望みますか

- ①ぜひ望む ②どちらかと言えば望む ③どちらとも言えない ④望まない
⑤その他 ()

問9. もし、社会人としてこの大学院へ入学するとすれば、どちらのコースを選びますか

- ①国際言語学コース、 ②国際文化学コース ③どちらかわからない

ご協力有難うございました。

(3) 高校生へのアンケート調査

アンケート調査へのご協力依頼（高校生用） 無記名でお願い

趣旨説明

文部科学省では、世界のグローバル化に伴い、多様化する経済、社会、国際的問題に対応するため、「グローバル化社会に対応する大学院教育」を求めています。創立 27 年を迎えた宮崎国際大学は 2021 年世界大学ランキングの国内大学ランキングにおいて、国際性部門で全国 8 位と非常に名誉な結果となりました。しかし、残念なことに大学院が設置されておらず、このままでは国の要望に応えることができません。世界のグローバル化に伴い、県内産業界の海外進出はもとより、様々な国際的問題（環境問題や食料問題他）等に対応する外国語（特に英語）コミュニケーション力の高い人材の養成が早急に求められています。また、高度な言語能力を有して、英語の教育者育成に貢献できる人材育成も求められています。本学にはこのような人材育成を可能にできる基盤が備わっていますので、大学院修士課程の設置に向けた行動を開始したいと思っています。

本アンケートは、宮崎国際大学の大学院修士課程（国際言語学コースと国際文化学コース；いずれも仮称です、アンケートの後ろの参考に簡単な説明をしています）の設置に向けて、県内高校生の皆様のご意見をお伺いしたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願い致します。

以下の質問にお答えください（当てはまる番号に○をしてください）

問 1. あなたは次のどれに相当しますか

- (ア) 県立高校 ① 1 年生、 ② 2 年生、 ③ 3 年生、 ④ その他
(イ) 私立高校 ⑤ 1 年生、 ⑥ 2 年生、 ⑦ 3 年生、 ⑧ その他

問 2. あなたは、高校卒業後に大学への進学をどう考えていますか

- ①ぜひ進学したい ②できれば進学したい ③どちらとも言えない
④進学しない ⑤その他（ ）

問 3. あなたが、大学に進学する場合、大学院について興味がありますか

- ①非常に興味がある ②どちらかと言えば興味がある ③どちらとも言えない
④あまり興味はない ⑤全く興味はない

問 4. 大学を選ぶ際に、どのような大学院があるか、参考にしますか

- ①非常に参考にする ②参考にする ③どちらとも言えない ④参考にしない ⑤その他（ ）

問 5. 上記の趣旨説明を読んで、このようなグローバル社会に対応するための大学院教育を行う必要性をどう思いますか

- ①非常に必要と思う ②必要と思う ③どちらとも言えない ④あまり必要とは思わない ⑤その他（ ）

問6. 宮崎国際大学の大学院修士課程（2年間）の設置についてどう思いますか

- ①ぜひ設置した方がよい ②できれば設置した方がよい ③どちらとも言えない
④設置の必要はない ⑤その他（ ）

問7. 宮崎国際大学に大学院修士課程が設置された場合、入学したいと思いますか

- ①ぜひ入学したい ②条件が合えば入学したい ③今はわからない
④入学する予定はない ⑤その他（ ）

問8. 宮崎国際大学に大学院修士課程が設置され、国際言語や国際文化に優れた人材が輩出されるようになった場合、どの分野に貢献できると思いますか（複数回答可）

- ①教育 ②経済界 ③製造・生産業界 ④観光業界 ⑤サービス・ホテル業界
⑥航空業界 ⑦行政関係 ⑧マスコミ・情報業界 ⑨その他の職業（ ）
⑩わからない

参考

各コースの説明：

今回設置予定の大学院修士課程には、国際言語学コースと国際文化学コースの2つのコースを設けることを考えています。それぞれのコースの概要は以下の通りです。

国際言語学コース：現代のグローバル社会や地域社会では政治/経済/産業のあらゆる分野で交渉や高度なコミュニケーション能力が必要とされています。そのような交渉現場では、コミュニケーション能力だけでは不十分で、客観的思考力や高度な推理・判断力が求められます。このコースでは、高度な英語力マインドに裏打ちされた質の高い、総合的判断力に優れた人材を養成するためのものです。また、英語の教育者育成や教育現場で貢献できる人材も養成します。

国際文化学コース：グローバル化によって多くの国際的な課題が見えて来ました。例えば文化の違いによる国際紛争、ジェンダー格差問題、地球温暖化、ごみ廃棄問題、地球環境問題 他、様々です。他国の文化の多様性を客観的に見つめ、それぞれの長所短所を的確に判断でき、多国語でコミュニケーションが可能な能力を有する人材を養成するためのコースです。

ご協力有難うございました。

資料 1 - 2 アンケート調査の集計結果

(1) 在学生へのアンケート調査の集計結果

在学生 (1~3年生総計)

回答者

国際教養学部 224名 (76.5%)

教育学部 143名 (93.5%)

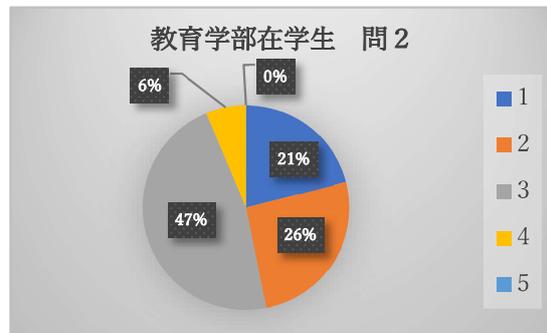
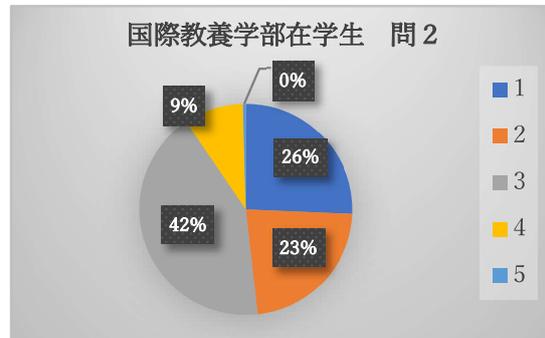
問2 大学院修士課程の設置についてどう思いますか

- ①ぜひ設置して欲しい
- ②できれば設置して欲しい
- ③どちらとも言えない
- ④設置の必要は無い
- ⑤その他

結果：大学院修士課程の設置を望む(ぜひ、

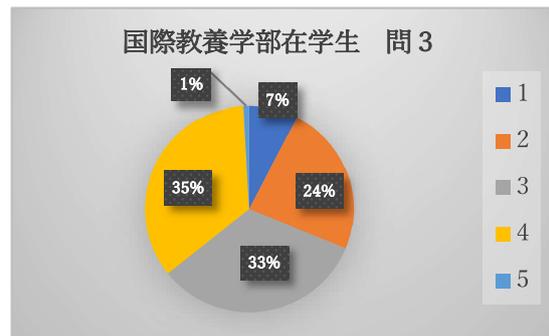
あるいはできれば設置して欲しい) 割

合は、両学部ともに40%以上を超え、設置の必要性は無い、の6~9%を大きく超えた。残りの約40%はどちらとも言えないを選択した。



問3. 大学院修士課程が設置された場合、進学したいと思いますか

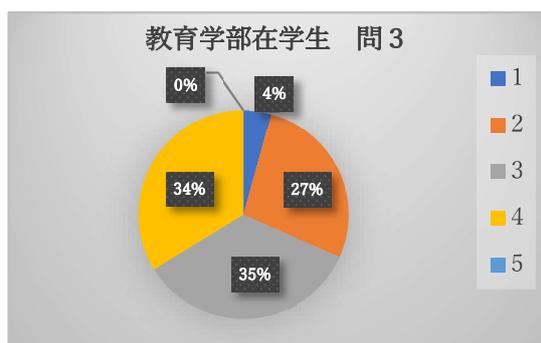
- ①ぜひ進学したい
- ②条件が合えば進学したい
- ③今はわからない
- ④進学する予定はない



⑤その他

結果：大学院修士課程が設置された場合、進学したいと思う（ぜひ、あるいは条件が合えば進学したい）割合は、国際教養学部 31%、教育学部 31%と全く同じであった。その中で、「ぜひ進学したい」は国際教養学部 7%、教育学部 4%

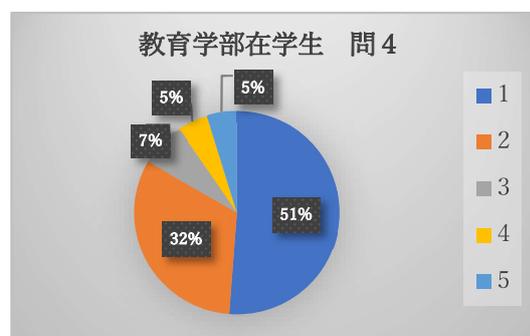
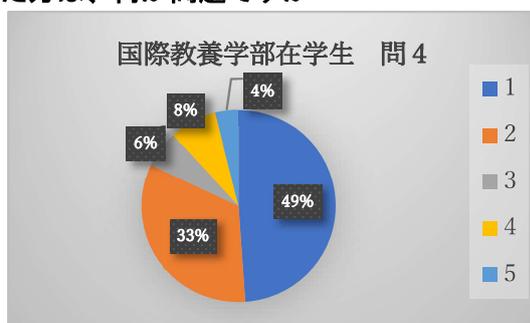
であった。「ぜひ進学したい」を実人数にすれば、各学年に国際教養学部 7~8 人、教育学部 2 人となった。「進学する予定は無い」が、両学部ともに 34%と 35%であり、ほぼ同様の割合であった。



問4. 進学したいけど、進学できないと思った方は、何が問題ですか

- ①経済的理由
- ②学力、能力
- ③周囲の理解
- ④年齢
- ⑤その他

結果：大学院修士課程の設置された場合、進学したいと思うが、できない理由について、両学部とも約 50%が経済的理由を挙げた。次にこれも両学部同様に約 33%が学力や能力を理由に挙げた。一方で、周囲のりかいや年齢については 10%以下であった。このことから、経済的な配慮が必要と考えられる。

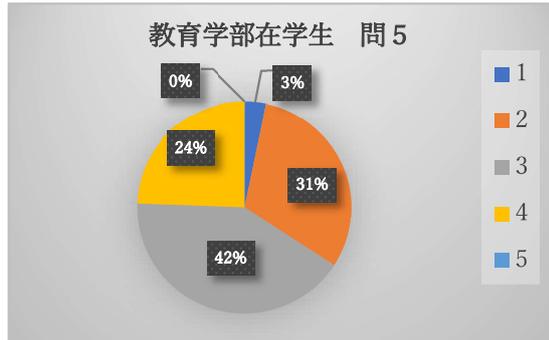
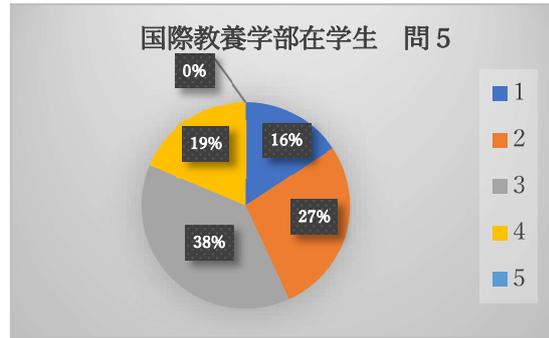


問5 大学院修士課程設置計画の説明会の開催を望みますか

- ①ぜひ望む
- ②どちらかと言えば望む
- ③どちらとも言えない
- ④望まない
- ⑤その他

結果：「大学院修士課程の設置計画の説明会をぜひ望む」と答えた割合は、国際教養学部16%に対して教育学部では3%と低かった。しかし、「どちらかと言えば望む」と答えた割合は約30%近くあり、説明次第では進学を希望する学生が増える可能性が推測された。

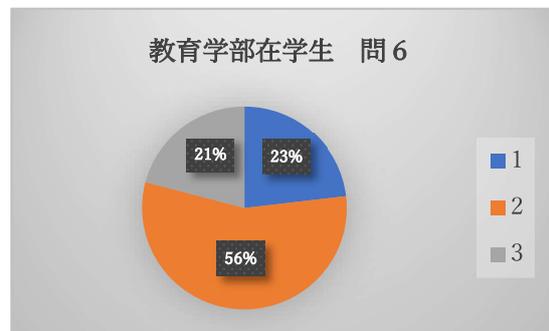
説明会を望まない学生は、おそらく進学しないと決めている学生と思われるが、約1/4～1/5の割合であった。



問6. これまでに、卒業後に他大学の大学院進学を考えたことがありますか。

- ①ある
- ②無い
- ③どちらとも言えない

結果：卒業後に他大学の大学院進学を考えたことがあるかの質問に対して、両学部ともに20%以上の学生があると答えた。予想以上に進学を考えている学生が多いことが判明した。一方で、他大学の大学院進学を考えたことは無いと答えた学生が、両学部ともに半数以上いた。



問7. あなたは、本学を卒業後、どのような職に就きたいと思っていますか

- ①教師
- ②経済界
- ③製造・生産業
- ④観光業界
- ⑤サービス・ホテル業界
- ⑥航空業界
- ⑦公務員
- ⑧進学
- ⑨その他の職業
- ⑩不明



結果：卒業後の進路については、教育学部は98%の学生が教師を目指しているのに対して、国際教養学部の学生の進路は多様であった。まだ不明と答えた学生が半数近くいた。進学の割合も、国際教養学部では15%、教育学部で4%いた。国際教養学部の進路希望の主なものは、サービス・ホテル業界、航空業界（おそらくCA）、公務員や経済界の順であった。

問8. 問3で、①ぜひ進学したい ②条件が合えば進学したい ③今はわからない
を選んだ人は次のどちらのコースに行きたいか教えてください

- ①国際言語学コース、
- ②国際文化学コース
- ③どちらかわからない

結果：「大学院へ進学した場合、国際言語学コースと国際文化学コースのどちらのコースを選択するか」については、国際教養学部の学生は40%：38%、教育学部の学生は20%：19%で、どちらを選ぶかの偏りは見られなかった。一方で、「どちらかわからない」を選んだ割合は、国際教養学部の学生が22%に対



して、教育学部学生は61%もあり、後者は、まだどちらを選ぶかはわからないという結果であった。

(2) 社会人へのアンケート調査の集計結果

回答者

公務員（西都市役所）	30名
宮崎商工会議所	104名
宮崎銀行	20名
綾町教育委員会	5名
計	159名

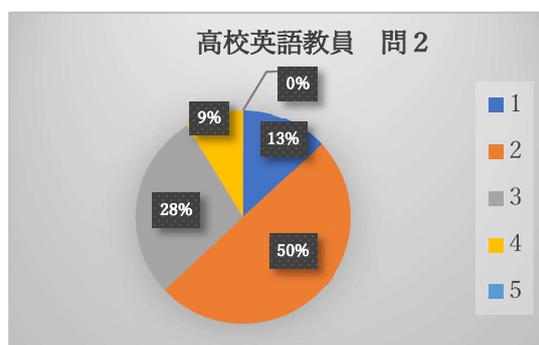
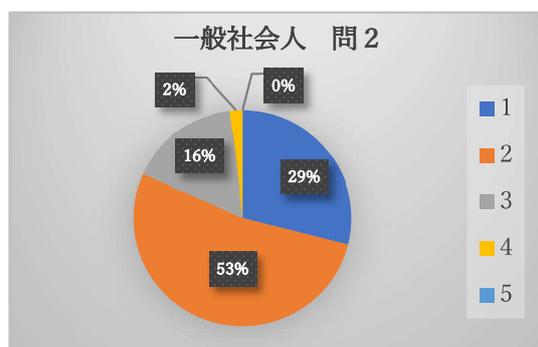
高校英語教師

宮崎学園	10名
宮崎県立北高校	9名
宮崎県立西高校	13名
宮崎県立南高校	5名
計	46名

問2. 上記の趣旨説明を読んで、このようなグローバル社会に対応するための大学院教育を行う必要性をどう思いますか

- ①非常に必要と思う
- ②必要と思う
- ③どちらとも言えない
- ④あまり必要とは思わない
- ⑤その他

結果：非常に必要と思う、あるいは必要と思うと答えた割合は、一般社会人では約80%、高校英語教員では63%であり、いずれも非常に高い割合であった。一方で、あまり必要では無いと答えた割合は一般社会人で2%、英語教員で9%であった。



問3. 宮崎国際大学の大学院修士課程の設置についてどう思いますか

- ①ぜひ設置して欲しい
- ②できれば設置して欲しい
- ③どちらとも言えない
- ④設置の必要は無い
- ⑤その他

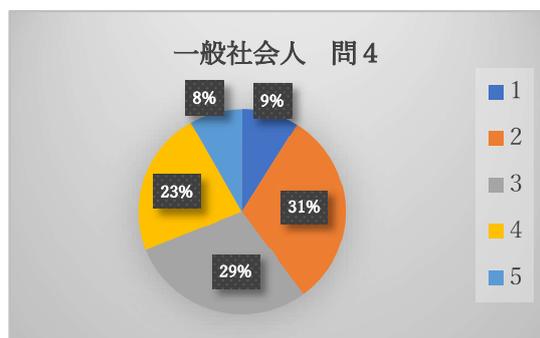
結果：本学にぜひ設置して欲しいと答えた割合は、一般社会人で 34%、高校英語教員で 7%であった。一般社会人の方が約 5 倍も高い値を示した。しかし、できれば設置して欲しい、と答えた高校英語教員は 43%もあり、設置を望む合計はちょうど 50%を占めた。高校英語教員の 43%は、どちらとも言えないと答えた。



問4. 大学院修士課程が設置された場合、社会人の受け入れが可能となります。あなたは、この大学院修士課程に興味がありますか

- ①非常に興味がある
- ②どちらかと言えば興味がある
- ③どちらとも言えない
- ④あまり興味はない
- ⑤全く興味はない

結果：設置された場合に、社会人の受け入れが可能と言うことで、本学でのこの修士課程の設置に興味があるかどうかを尋ねると、非常に興味があると答えた割合は、一般社会人で 9%、高校英語教員では 6%であった。しかし、高校英語教員では、どちらかと言えば興味があると答えた割合が、非常に高く、50%となった。

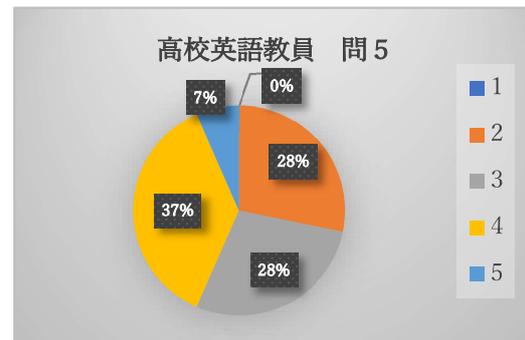
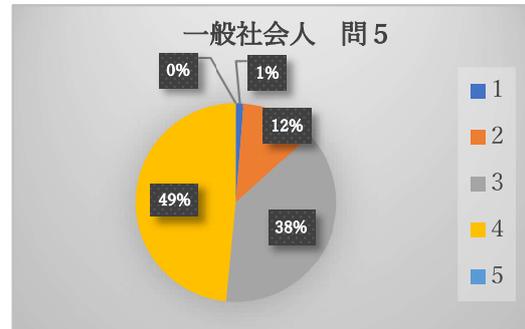


このことから、一般社会人と高校英語教員の多くが、この修士課程の設置に興味を持っていることが判明した。

問5. この大学院修士課程が設置された場合、社会人として入学したいと思いますか

- ①ぜひ入学したい
- ②条件が合えば入学したい
- ③今はわからない
- ④入学する予定はない
- ⑤その他

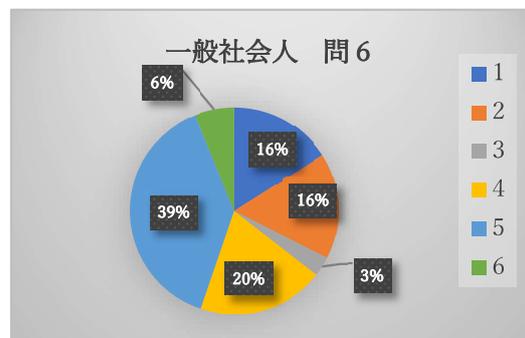
結果：設置された場合に、入学を希望するかの問いに対しては、ぜひ入学すると回答した者は、一般社会人ではわずかに1%であり、高校英語教員はゼロであった。しかし、条件が合えば、入学したいと答えた人が、予想以上に多く、一般社会人では12%、高校英語教員では28%にも上った。



問6. 入学したいけど、入学できないと思われる方は、何が問題ですか

- ①経済的理由
- ②学力、能力
- ③周囲の理解
- ④年齢
- ⑤仕事との両立
- ⑥その他

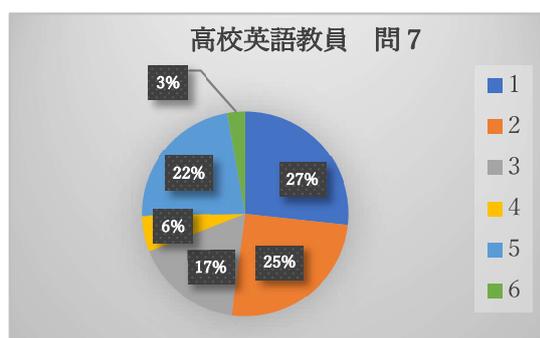
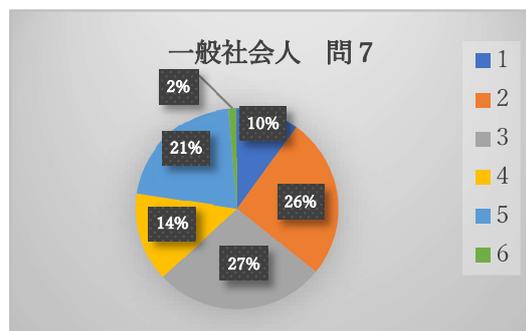
結果：問5に関連して、入学したいが、どのような問題があるのかを選択して頂いたところ、最も多かったのは仕事との両立であり、約40~50%の割合であった。また、経済的理由をあげた方も多く、一般社会人では16%、高校英語教員では25%であった。意外に周囲の理解をあげた割合は低かった。年齢を理由にあげた方は、一般社会人で20%、高校英語教員で13%であった。



問7. この大学院修士課程を卒業した場合、どのようなメリットがあると考えられますか（複数回答可）

- ①職業に活かせる
- ②語学が上達する
- ③国際的感覚が身に付く
- ④新たな職業に転換できる
- ⑤学位が得られる
- ⑥その他

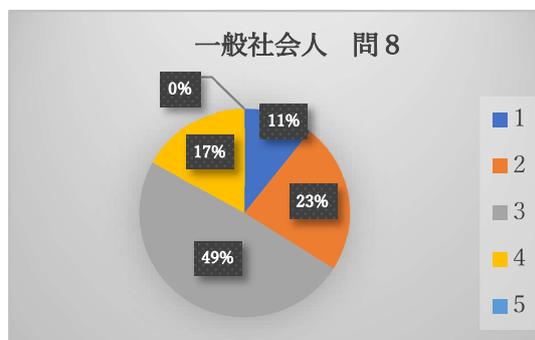
結果：修士課程を卒業した場合に、社会人や高校英語教員にどのようなメリットが考えられるかを選択してもらった結果、一般社会人では、語学の上達、国際的感覚の取得、学位の取得の割合がいずれも20~30%の範囲であった。また、新たに職業を転換できると回答した割合も高く14%であった。一方で、高校英語教員では職業に活かせる、語学が上達する、学位が得られるを選択した方が多かった。



問8. 大学院修士課程設置計画の説明会の開催を望みますか

- ①ぜひ望む
- ②どちらかと言えば望む
- ③どちらとも言えない
- ④望まない
- ⑤その他

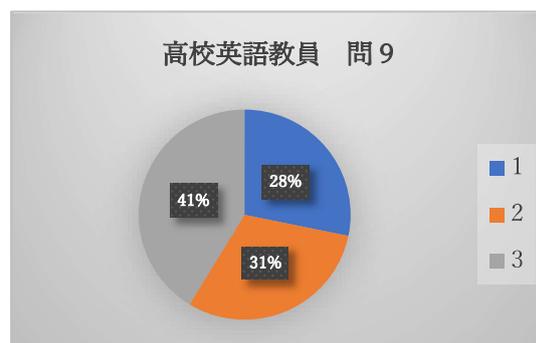
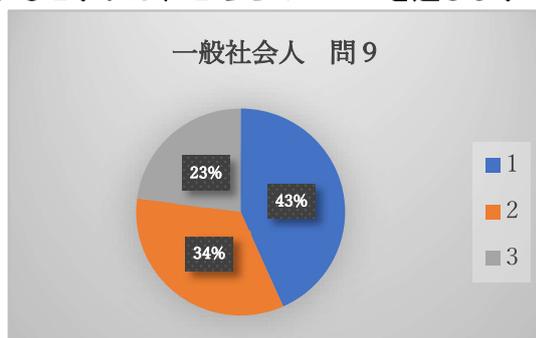
結果：修士設置の説明会を望む、あるいはどちらかと言えば望む、を答えた割合は一般社会人および高校英語教員のいずれも約30%弱であった。一方で、望まないと回答された方の割合は、一般社会人で17%、高校英語教員で4%と低い割合であった。



問9. もし、社会人としてこの大学院へ入学するとすれば、どちらのコースを選びますか

- ①国際言語学コース
- ②国際文化学コース
- ③どちらかわからない

結果：一般社会人では国際言語学コースを選ぶ割合が43%で、国際文化学コースは34%であったのに対し、高校英語教員は逆に、国際文化学コースを選んだ割合の方が高くて31%、一方の国際言語学コースは28%であった。どちらかわからないと答えた割合も高く、一般社会人では23%、高校英語教員では41%に上った。



(3) 高校生（3年生）へのアンケート調査の集計結果

回答者

県立高校 3校 482名

私立高校 1校 129名（姉妹高校 宮崎学園高校）

回答者合計数 611名

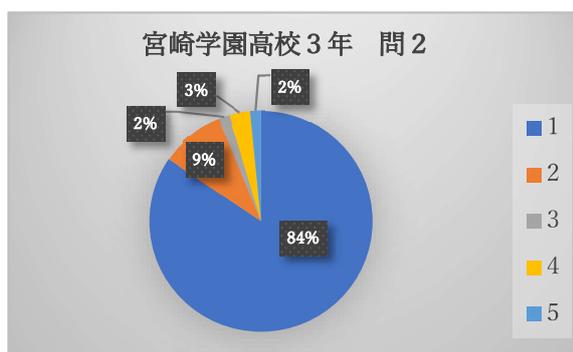
回収率 96.5%

問2. あなたは、高校卒業後に大学への進学をどう考えていますか

- ①ぜひ進学したい
- ②できれば進学したい
- ③どちらとも言えない
- ④進学しない
- ⑤その他

結果：このアンケート調査に応じた高校3

年生の大半、およそ85%は進学を希望していた。できれば進学したい数を入れれば、90%以上であった。進学しないと答えたのは県立、私立ともに3%であり、本アンケートは、大学進学を考えている学生の意見が反映されると、考えても良いと思われる。

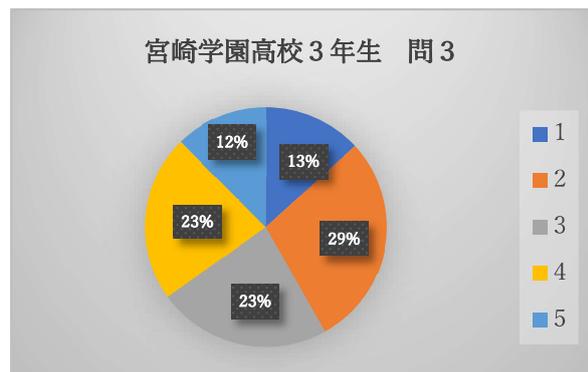


問3. あなたが、大学に進学する場合、大学院について興味がありますか

- ①非常に興味がある
- ②どちらかと言えば興味がある
- ③どちらとも言えない
- ④あまり興味はない
- ⑤全く興味はない



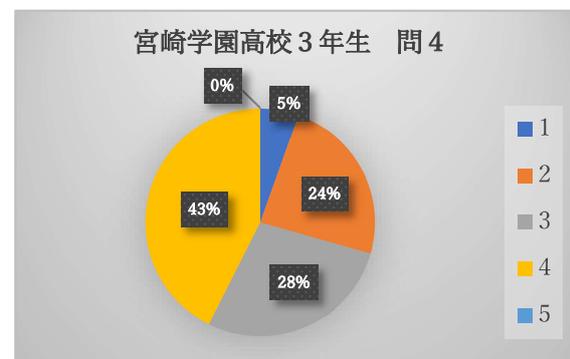
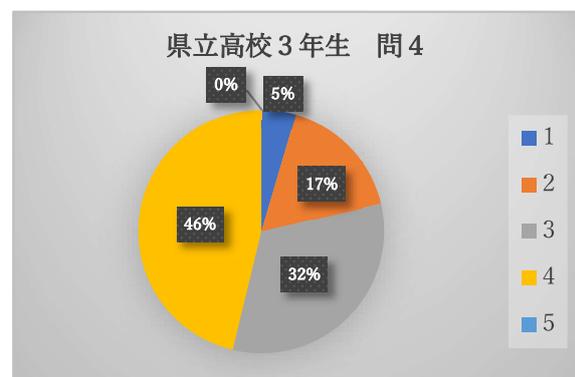
結果： 県立、私立ともに、非常に類似した結果となった。高校3年生の時点では、大学院への関心はそれほど高くなく、非常に興味があると答えたのは約10%弱であった。一方で、全く興味が無いと答えた割合も似たような割合で、約10%弱であった。



問4.大学を選ぶ際に、どのような大学院があるか、参考にしますか

- ①非常に参考にする
- ②参考にする
- ③どちらとも言えない
- ④参考にしない
- ⑤その他

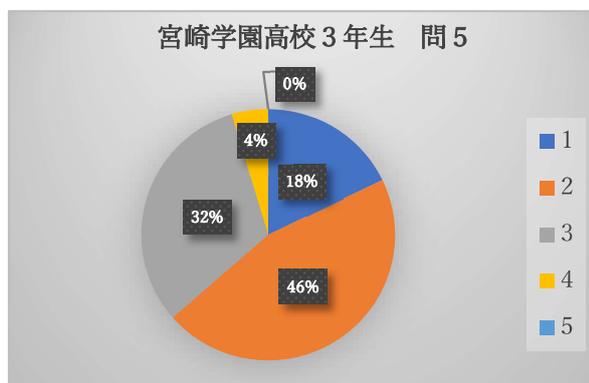
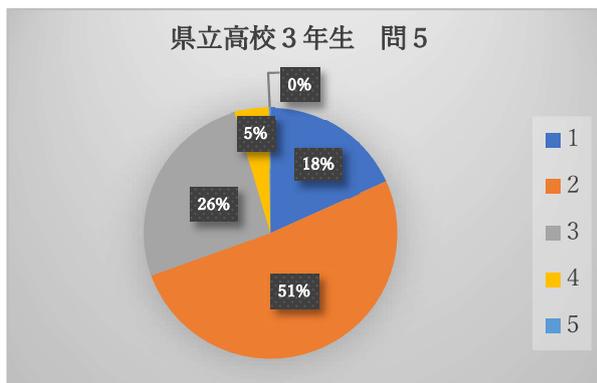
結果： この結果についても県立、私立ともに類似したものとなった。高校3年生が大学を選ぶときに、約半分はどのような大学院があるかは参考にしていなかった。一方で、約5%の学生が非常に参考にすると答えている。また参考にするを合わせると、約25%近くいることが判明した。



問5 上記の趣旨説明を読んで、このようなグローバル社会に対応するための大学院教育を行う必要性をどう思いますか

- ①非常に必要と思う
- ②必要と思う
- ③どちらとも言えない
- ④あまり必要とは思わない
- ⑤その他

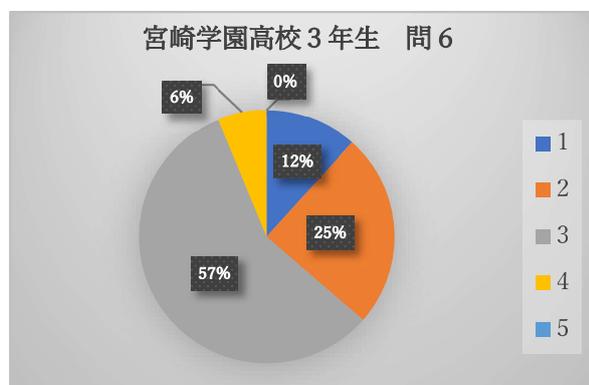
結果：本学が計画するようなグローバル社会に対応する大学院設置の必要性を認める学生は60%以上で、非常に必要と思うと回答した学生は18%であった。その結果、その必要性は十分に認識されていると思われる。



問6 宮崎国際大学の大学院修士課程（2年間）の設置についてどう思いますか

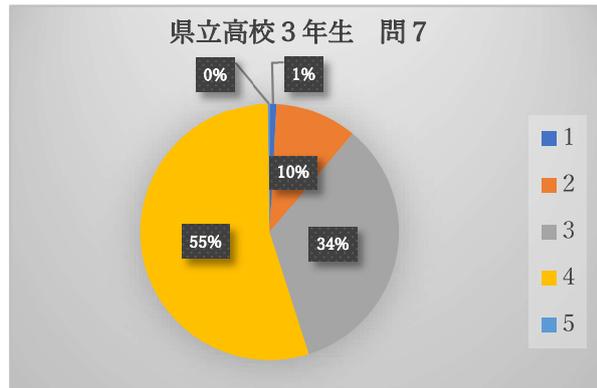
- ①ぜひ設置した方が良い
- ②できれば設置した方が良い
- ③どちらとも言えない
- ④設置の必要は無い
- ⑤その他

結果：本学の大学院設置については、県立、私立高校ともに、10%以上の学生が、ぜひ設置した方が良いと回答している。できれば設置した方が良くと答えた数を加えれば、40%前後になる。一方で、設置の必要性は無いと答えた割合は3~6%であった。

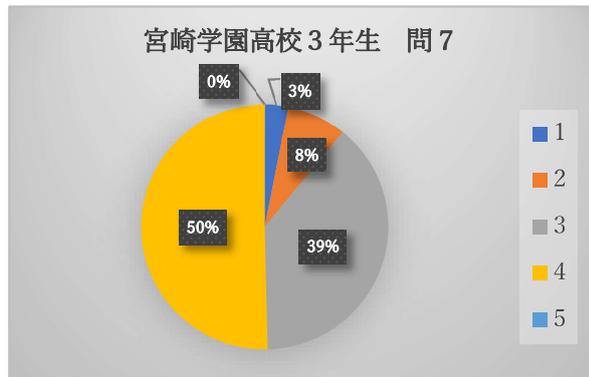


問7. 宮崎国際大学に大学院修士課程が設置された場合、入学したいと思いますか

- ①ぜひ入学したい
- ②条件が合えば入学したい
- ③今はわからない
- ④入学する予定はない
- ⑤その他



結果：本学に修士課程が設置された場合、本学への進学を望むかどうかを尋ねたが、これは、あまり適切な質問ではなかったと思われる。なぜなら、ぜひ入学したいと答えた学生の中には、修士課程が設置されなくても入学を希望する学生が含まれている可能性がある。条件が合えば入学したい数は約10%程度であった。



問8 宮崎国際大学に大学院修士課程が設置され、国際言語や国際文化に優れた人材が輩出されるようになった場合、どの分野に貢献できると思いますか（複数回答可）

- ①教育
- ②経済界
- ③製造・生産業界
- ④観光業界
- ⑤サービス・ホテル業界
- ⑥航空業界
- ⑦行政関係
- ⑧マスコミ・情報業界
- ⑨その他の職業



⑩わからない

結果：県立高校も私立高校（宮崎学園高校）もかなり類似したグラフ結果を示した。多くの高校生は、本修士課程卒業後は教育、観光、サービス・ホテル業界、航空業界への貢献が期待されると予想している。この結果は、宮崎国際大学の学部卒業生の実際の就職先をかなり反映している形になった。

資料 2 - 1

文部科学省国立教育政策研究所・JICA地球ひろば共同プロジェクト グローバル化時代の国際教育のあり方国際比較調査報告書からの抜粋

文部科学省国立教育政策研究所・JICA地球ひろば共同プロジェクト グローバル化時代の国際教育のあり方国際比較調査

最終報告書 (第2分冊)

平成26年3月
(2014年)

独立行政法人 国際協力機構 地球ひろば

株式会社 国際開発センター (IDCJ)

国内
JR
14-002

文部科学省国立教育政策研究所・JICA 地球ひろば共同プロジェクト
グローバル化時代の国際教育のあり方国際比較調査

最終報告書
(第2分冊)

目次

はじめに

第1部 グローバル社会における各国及び我が国の教育課程と国際教育の動向

第1章 我が国の教育課程と国際理解教育/開発教育の現状	1
1-1 我が国における近年のグローバル人材の議論	1
1-1-1 グローバル人材に求められる資質・能力	1
1-1-2 グローバル人材育成に関連する施策	3
1-1-3 本調査での「グローバル人材」の基本的な捉え方	5
1-2 我が国の教育課程の現状	5
1-3 我が国の国際理解教育/開発教育の現状	7
第2章 グローバル社会において求められる教育課程	9
2-1 各国の教育課程編成上の特徴	9
2-1-1 イギリスの教育課程	9
2-1-2 ドイツの教育課程	11
2-1-3 カナダの教育課程	12
2-1-4 アメリカの教育課程	14
2-1-5 オーストラリアの教育課程	16
2-1-6 ニュージーランドの教育課程	18
2-2 各国の教育課程で重視されている能力やスキル	19
2-3 我が国における資質・能力に係る検討状況	22
第3章 グローバル社会において実践される多様な国際教育	24
3-1 各国の国際教育実践の特徴	24
3-1-1 イギリスの国際教育	24
3-1-2 ドイツの国際教育	26
3-1-3 カナダの国際教育	27
3-1-4 アメリカの国際教育	29

**第Ⅰ部　グローバル社会における各国
及び我が国の教育課程と国際教育の動向**

第1章 我が国の教育課程と国際理解教育/開発教育の現状

まず最初に、本調査の背景にある我が国における近年の「グローバル人材」に関する議論を整理した上で、本調査での「グローバル人材」の基本的な捉え方を述べる。その後、日本の教育課程の現状と日本における国際理解教育/開発教育の現状を概観する。

1-1 我が国における近年のグローバル人材の議論

本調査の背景には、グローバル化社会において、我が国と他国との相互依存関係が複雑に深化している中、世界の現状に対する理解の促進や、異なる価値観・環境に対する適応力・対応力を持ったグローバル人材の育成は、我が国における喫緊の課題であるとの認識がある。近年、我が国では「グローバル人材」の必要性が唱えられ、産官学により必要とされる人材像やその育成に資する施策などについてさまざまな議論が行われてきている。この背景には、国内で人口減少と高齢化が進み、経済におけるグローバル競争が激化し、企業の海外進出や人材の流動化が進む一方で、若者の間に海外に出たがらない「内向き志向」があり、こうした状況に対応し日本の競争力を高めることのできる人材が不足しているとの危機感がある。

これらの議論の中心は主に大学教育の国際化、そして産業界が必要とする人材の育成であるが、グローバル人材に求められる資質・能力は大学教育のみで育成できるものではなく、本調査が対象としている初等中等教育の段階から継続した取り組みが必要であり、文部科学省も様々な取り組みを始めている。国立教育政策研究所でも、こうした社会で求められる資質・能力を育成する観点から教育課程を編成することを提言し、その具体化に向けた研究を進めている。

1-1-1 グローバル人材に求められる資質・能力

現代社会において育成すべき人間像として、これまで内閣府による「人間力」(2003年)、厚生労働省による「就職基礎能力」(2004年)、経済産業省による「社会人基礎力」(2006年)、文部科学省による「学士力」(2008年)など、さまざまな領域で目標が示されてきた¹。このうち、経済界と大学教育のそれぞれの側から見た人材像の例として、「社会人基礎力」と「学士力」の内容を以下に示す。これを見ると、いずれの人間像においても、「思考力」「コミュニケーション力」「問題解決力」「主体性」「チームワーク」などが含まれていることがわかる。

「社会人基礎力」と「学士力」の内容

「社会人基礎力」		「学士力」	
職場や地域社会で多様な人々と仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力		学士課程で育成する 21 世紀型市民の内容に関する参考指針	
前に踏み出す力 (action)	主体性	知識・理解	学問分野の知識の体系的な理解
	働きかけ力		コミュニケーション・スキル
	実行力	汎用的技能	数量的スキル
考え抜く力 (thinking)	課題発見力		情報リテラシー
	計画力		論理的思考力
	創造力		問題解決力

¹ 国立教育政策研究所『教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書6 諸外国の教育課程と資質・能力—重視する資質・能力に焦点を当てて—』2013年7月。

チームで働く力 (team-work)	発信力
	傾聴力
	柔軟性
	状況把握力
	規律性
	ストレスコントロール力

態度・志向性	自己管理能力
	倫理観
	チームワーク、リーダーシップ
	市民としての社会的責任
	生涯学習力
総合的な学習経験と創造的思考力	これまでに獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

出典：経済産業省「社会人基礎力に関する研究会—中間とりまとめ—」（2006年）、及び文部科学省中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて（答申）」（2008年）をもとに調査チーム作成。

「グローバル人材」については、2009年ごろから政府を中心に産官学による様々な会議・議論が行われてきた²。ここでは、このうち代表的な3つの会議の中での「グローバル人材」の定義を紹介する。

各種会議による「グローバル人材」の定義

会議名	グローバル人材の定義
「産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会」（経済産業省（文部科学省）、2010年） ³	「グローバル化が進展している世界の中で、主体的に物事を考え、多様なバックグラウンドをもつ同僚、取引先、顧客等に自分の考えを分かりやすく伝え、文化的・歴史的なバックグラウンドに由来する価値観や特性の差異を乗り越えて、相手の立場に立って互いを理解し、更にはそうした差異からそれぞれの強みを引き出して活用し、相乗効果を生み出して、新しい価値を生み出すことができる人材。」 「グローバル人材」に共通して求められるのは、通常の社会人に求められる①「社会人基礎力」に加え、②外国語でのコミュニケーション能力、③異文化理解・活用力。
「産学連携によるグローバル人材育成推進会議」（文部科学省、2011年） ⁴	「世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間。」
「グローバル人材育成推進会議」（内閣官房、2012年） ⁵	「要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力、要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ」などを有する人材。 「グローバル人材」に限らずこれからの社会の中核を支える人材に共通して求められる資質として、「幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと（異質な者の集団をまとめる）リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等」。

出典：各会議の資料をもとに調査チーム作成。

これらを見ると、「グローバル人材」の観点からは、「社会人基礎力」や「学士力」であげられた資質・能力に加え、「異文化理解力」や「語学力」が求められており、「コミュニケーション力」や「チームワーク」「問題解決力」といった資質・能力も、文化的背景が異なる者同士の間で発揮することが求められていることがわかる。

² 本節で紹介する以外の主な議論として、「産学協働人材育成円卓会議」（文部科学省・経産省、2011～2012年）、日本経済団体連合会による「グローバル人材の育成に向けた提言」（2011年6月）などがある。

³ 産学人材パートナーシップ グローバル人材育成委員会「報告書～産学官でグローバル人材の育成を～」2010年4月。

⁴ 産学連携によるグローバル人材育成推進会議「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」2011年4月。

⁵ グローバル人材育成推進会議「グローバル人材育成戦略（グローバル人材育成推進会議 審議まとめ）」2012年6月。

4. 大学などにおける社会人の学び直し機能の強化	(省略)
5. 大学のガバナンス改革、財政基盤確立による経営基盤強化	(省略)

出典：教育再生実行会議（第3次提言）「これからの大学教育等の在り方について」（2013年5月）をもとに調査チーム作成

このうち、「1. グローバル化に対応した教育環境づくり」の3) で言及されているスーパーグローバルハイスクールについては、「社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力などの国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する」ことを目的に、平成26年度より5年間、高校及び中高一貫校計50校を指定することとなり、2014年1月に公募説明会が開催された。この事業では、国際化を進める大学や企業、国際機関などと連携し、教育課程の研究開発・実践、グループワークや論文作成、プロジェクト型学習などの実施、海外の高校・大学などとの連携、体制整備などを行うことになっている⁷。

産業競争力会議に関しては、人材力強化・雇用制度改革について議論が行われた2013年3月の第4回会合において、文部科学大臣が「人材力強化のための教育戦略」を説明した。ここで示された戦略は、①大学を核とした産業競争力強化プラン、②初等中等教育段階からの世界トップレベルの学力・人間力強化/“グローバルJr.”の育成、③産業構造変化に対応した学び直し・生涯学習機会の提供、の3つであり、具体的施策は教育再生実行会議の第3次提言に沿ったものとなっている。このうち、初等中等教育に関する2番目の戦略は、以下のとおりである⁸。

産業競争力会議における「人材力強化のための教育戦略」の内容

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 社会総がかりで、国際的素養を身に付けた「強い」日本人の育成 ・グローバル基礎力の習得（国際的視野、課題発見・解決力、コミュニケーション力、クリティカル・シンキング力、情報取捨選択力、社会貢献意識などを育成） ・グローバル社会で求められる課題解決型の学力において、世界トップレベルの水準の確保 ・中高生の英語力の向上：世界トップレベルの大学へ進学できる人材輩出
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・PISA⁹の全分野でトップレベル（現在の順位からさらに上昇） ・英語力（日本人のTOEFL平均点iBT69点から80点に向上、中卒時の英検3級程度以上、高卒時の英検準2級・2級程度以上の割合をそれぞれ50%に） ・高校生留学（短期、長期とも倍増：6万人） ・国際バカロレア認定（候補）校：今後5年間で16校から200校へ
具体的方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学力・人間力（言語活動やICT活用などを通じた授業革新、国語力の向上、習熟度別指導や少人数教育などのきめ細かな指導、教師力向上、思考力・判断力・表現力などの育成の一層の充実、理数教育の推進、実社会との関わりを重視したキャリア教育の充実など） ・外国語によるコミュニケーション能力・論理的思考力（外国語教員の語学力・指導力の大幅改善、イングリッシュキャンプなどの子供たちの英語漬け体験機会の充実、ICTを活用した海外との交流授業の促進、TOEFLなどの大学入試への活用など） ・海外に打って出る突破力・国際的視野の涵養（高校生留学促進、国際的に活躍する人材を学校に派遣など）

⁷ 文部科学省ホームページ http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/sgh/index.htm

⁸ 「人材力強化のための教育戦略」 下村博文文部科学大臣 平成25年3月15日。第4回産業競争力会議 配布資料 <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/skkaigi/dai4/siryu.html>

⁹ 経済協力開発機構（OECD）が実施する国際的な学習到達度調査で Programme for International Student Assessment の略称。

宮崎県のグローバルプラン

具体的な施策の展開

施策Ⅰ グローバル経済交流の強化

1 海外への展開促進

- (1) 県内生産品の輸出の促進
- (2) 海外進出による事業拡大への支援

2 海外からの誘致促進

- (1) 外国人観光客の誘致の強化・促進
- (2) 「スポーツランドみやざき」の進化
- (3) 海外からの投資呼び込み

施策Ⅱ グローバル人材の育成・確保

1 グローバル社会に対応できる幅広い人材の育成

- (1) 県民の国際理解の推進
- (2) グローバル化の進展に対応した学校教育の推進
- (3) 県民主体の活動に対する支援

2 産業分野での人材の育成・確保

- (1) 高校、大学、企業等を対象とする世界を視野に入れた産業人材の育成・確保
- (2) 外国人材の円滑な受入れ・活用促進

3 交流基盤の整備

- (1) 航空ネットワークの維持・充実
- (2) 海上ネットワークの維持・充実
- (3) 危機管理体制の確保

施策Ⅳ 国際交流・国際協力の促進

1 国際交流の促進

- (1) 海外都市・地域との交流拡大
- (2) 多様な分野・主体による国際交流の促進
- (3) 海外における人的ネットワークの構築・拡大による交流の促進
- (4) 外国人との身近な交流の促進

2 国際協力の促進

- (1) 海外技術研修員等の受入れ
- (2) 多岐で身近な国際協力の促進
- (3) 国際協力機構（JICA）との連携

(概念図)

世界に開かれ、世界を舞台に躍動するみやざき

【宮崎のグローバル資源（世界の中で競争力を有するもの）】
 ・農林水産物・食料品・生薬品（宮崎牛、豚肉等）
 ・観光文化資源・スポーツ環境（世界農業遺産、キャンプ場）
 ・生活環境（温暖な気候、豊かな自然等）
 ・ネットワーク（在外県人会、姉妹・友好都市等）

みやざきグローバルプランの概要

計画概要

策定趣旨等

- 県の持続的な発展のため、世界に目を向け、世界の活力を取り込み、社会・経済・産業の活性化を図ることが重要
- グローバル化の進展により、国境を越え県に直接影響を及ぼす世界の潮流や動きに迅速かつ的確に対応することも必要
- アジアをはじめ、北米・EUなどの有望市場をターゲットに、県産品の販路開拓や観光誘客のほか、グローバル人材の育成確保、多文化共生社会づくりの推進、国際交流・協力の促進など、グローバル関連施策を総合かつ計画的に推進

位置付け

- 推進本部による計画の進捗管理
- 海外拠点機能の活用
- 市町村・関係機関等との連携・協働

推進期間

- 2019～2022 アクションプランと同じ期間（4年間）

本県の現状と課題

本県を取り巻く世界情勢

- 世界人口の増加、新興国を中心としたさまざまな経済成長
- グローバル化の進展によるト・モノ・情報・サービス等の往來の活発化
- 地球環境問題への関心の高まり、持続可能な開発目標（SDGs）の理念の広がりに

本県の現状と課題

- 人口減少や高齢化社会の到来に伴う国内市場の縮小・労働力不足
- 輸出額の増加・訪日外国人の増加、ゴールデン・スパートツイエイズの到来
- 外国人材の受入れ拡大に伴う外国人住民の増加
- 世界における宮崎のネットワークの活用・拡大

施策の方向性と施策体系

○目指す姿を実現するため、3つの理念に沿って、4つの施策を推進

目指す姿
 「挑戦」から「成果」へ 「共存」から「共生」へ
世界に開かれ、世界を舞台に躍動するみやざき

理念
 世界とつながる
世界の発展ネットワークの活用・拡大による多様な分野での海外との交流拡大

世界と共にあゆむ
全国トップクラスの取り組みを推進した多文化共生社会の実現

施策体系
 施策Ⅰ グローバル経済交流の強化
 施策Ⅱ グローバル人材の育成・確保
 施策Ⅲ 多文化共生社会づくりの推進
 施策Ⅳ 国際交流・国際協力の促進

資料 2-3

2021年度 本学の中・高校生対象のCLIL教育実績

2021年度 地域連携センター活動日程

2021-2022 COMMUNITY OUTREACH CENTER PROGRAM SCHEDULE

講座数: 20 参加者延人数: 1165人

DATE	EVENT	NO. of STUDENTS	LOCATION	FACULTY	REMARKS
1 6月11日 Friday	宮崎南高等学校 GLOBAL LECTURE PROGRAM 目的: 大学教員による講義を体験する	84	南高校 Minami HS	Passos (Presentation skills) Bond (Sociology)	<ul style="list-style-type: none"> Need 2 faculty One lecture on presentation skills, one lecture on any global topic in your field of specialization Lesson 1 from 13:50 Lesson 2 from 14:55
2 6月16日 Wednesday	クラーク記念国際高等学校 ENGLISH DAY 目的: 大学体験	40	本学 MIC	Jimenez	<ul style="list-style-type: none"> Need 1 faculty One lecture on any global topic in your field of specialization Need class observations
3 7月2日 Friday	宮崎南高等学校 GLOBAL LECTURE PROGRAM 目的: 大学教員による講義を体験する	84	南高校 Minami HS	Diaz Stanley	<ul style="list-style-type: none"> Need 2 faculty One lecture each on any global topic in your field of specialization Lesson 1 from 13:50 Lesson 2 from 14:55
4 7月2日 Friday	宮崎学園高等学校 目的: 1年生対象大学体験	25	本学 MIC	Schmidt	<ul style="list-style-type: none"> 2nd and 3rd year Miyazaki Gakuen HS Global Course students on campus in afternoon Pick up 13:00 Class with Rebecca 13:30-15:20 Depart MIC 15:30
5 7月9日 Friday	宮崎学園高等学校 目的: 1年生対象大学体験	25	本学 MIC	Waterfield Schmidt	<ul style="list-style-type: none"> 2nd and 3rd year Miyazaki Gakuen HS Global Course students on campus in afternoon Pick up 10:00 Activities with students, campus tour, lunch Class with Rebecca 13:30-15:20 Depart MIC 15:30
6 7月19~21日 Monday to Wednesday	延岡星雲高等学校 GLOBAL SESSIONS 2 目的: 世界規模の課題を学ぶ、英語プレゼンテーション能力を向上させる	40	本学 MIC	Kobayashi Miodkowski Howard Kasai	<ul style="list-style-type: none"> Need 9 faculty to do 50-minute lectures (you may double up) on anything in your area of expertise. The first two sessions will teach presentation skills This is a 3-day program (Paid)
7 9月17日 Friday	宮崎南高等学校 GLOBAL LECTURE PROGRAM 目的: 大学教員による講義を体験する	84	南高校 Minami HS	Hall Occhi	<ul style="list-style-type: none"> Need 2 faculty One lecture each on any global topic in your field of specialization Lesson 1 from 13:50 Lesson 2 from 14:55
8 9月30日 Thursday	延岡星雲高等学校 GLOBAL SESSIONS 1 目的: 世界規模の課題を学び、英語プレゼンテーション能力向上	26	延岡星雲 高校 Nobeoka Seiun HS	Lim	<ul style="list-style-type: none"> Need 1 faculty member to run a workshop on global issues and presentation skills 3-5 Student assistants (Paid)
9 10月19日 Tuesday	宮崎学園高等学校体験入学 MIYAGAKU ENGLISH DAY 目的: 体験入学	141	本学 MIC		<ul style="list-style-type: none"> Need 3 ILA and 3 EDU faculty to do model lessons at the times below 10:10-10:55 (45)
10 10月28日 Thursday	宮崎南高等学校 GLOBAL ENGLISH DAY (2年生) 目的: ディスカッション及びプレゼンテーション能力向上	84	本学 MIC	Yamamoto (Lecture on poster presentation)	<ul style="list-style-type: none"> Minami HS students come to MIC to talk about their research projects with MIC faculty and students Need 1 faculty to do a lecture on giving good poster presentations Talk/discussion on intercultural communication and cross-cultural differences Presentation on MIC education and study abroad experience (Lloyd/students) Activities with sempai
11 11月9日 Tuesday	都城西高等学校 ENGLISH DAY 目的: 体験入学	36	本学 MIC	Kasai (Science)	<ul style="list-style-type: none"> Students on campus from 9:00 to 15:30
12 11月26日 Friday	宮崎南高等学校 GLOBAL ENGLISH DAY (1年生) 目的: 異文化理解、ディスカッション及びプレゼンテーション能力向上	84	本学 MIC	Head (Listening) Lim	<ul style="list-style-type: none"> Need 2-4 faculty to do lectures in something in the sciences and something in the humanities/social sciences at 11:10 - 11:55 and 13:00 - 13:45 Will request class observations in first period Need faculty to help organize and run the following <ul style="list-style-type: none"> Listening workshop World café-style discussion on the lectures they got in June, July, and September Talk/discussion on intercultural communication/differences Presentation on MIC education and study abroad experience (Lloyd/students) Activities with sempai
13 12月8-10日 Wednesday - Friday	高鍋高等学校1年ウィンターイングリッシュキャンプ実施要領 TAKANABE HIGH SCHOOL FIRST YEAR STUDENT WINTER CAMP PROGRAM 目的: 大学体験、異文化理解、ディスカッション及びプレゼンテーション能力向上	28	本学 MIC	Mork Schmidt	<ul style="list-style-type: none"> Need faculty to help organize and run the following <ul style="list-style-type: none"> Presentation skills workshop Presentation practice
14 12月10日 Friday	宮崎学園高等学校 目的: 1年生対象大学体験	25	本学 MIC	Waterfield Schmidt	<ul style="list-style-type: none"> 2nd and 3rd year Miyazaki Gakuen HS Global Course students on campus in afternoon Pick up 8:30 Activities with students, campus tour, lunch Class with Rebecca 13:00-14:50 Depart MIC 15:00
15 12月21日 Tuesday	宮崎県観光協会 大宮中学校多文化体験プログラム 目的: 異文化について学ぶ	37	本学 MIC	International Students	<ul style="list-style-type: none"> Create 5 booths to introduce the cultures of international students <ul style="list-style-type: none"> Korea Jamaica Cameroon Vietnam USA
16 1月28日 Friday	宮崎南高等学校 GLOBAL ENGLISH DAY (1年生) 目的: ディスカッション及びプレゼンテーション能力向上	84	本学 MIC	Lim	<ul style="list-style-type: none"> Need faculty to help organize and run the following <ul style="list-style-type: none"> Presentation skills workshop Presentation on the lectures they got in June, July, and September
17 2月12日 Thursday	小林高等学校 GLOBAL ENGLISH DAY (2年生) 目的: ディスカッション及びプレゼンテーション能力向上	40	本学 MIC	(Head)	<ul style="list-style-type: none"> Need faculty to help organize and run the following <ul style="list-style-type: none"> Refresher workshop on presentation skills Presentation practice
18 2月24日 Thursday	宮崎南高等学校 GLOBAL ENGLISH DAY (2年生) 目的: ディスカッション及びプレゼンテーション能力向上	84	本学 MIC	(Head)	<ul style="list-style-type: none"> Need faculty to help organize and run the following <ul style="list-style-type: none"> Refresher workshop on presentation skills Presentation practice
19 3月10日 Thursday	宮崎南高等学校 GLOBAL ENGLISH DAY (2年生) 目的: ディスカッション及びプレゼンテーション能力向上	84	本学 MIC	Lloyd	<ul style="list-style-type: none"> Need faculty to help organize and run the following (I ran this by myself with students last year without any problem) <ul style="list-style-type: none"> Presentation Day
20 3月12~13日 Saturday- Sunday	グローバル・リーダーセミナー GLOBAL LEADER SEMINAR 目的: 大学生とともに世界規模の課題を学び、英語プレゼンテーション能力向上	30	宮崎学園 高校、他 Miyazaki Gakuen HS, etc.	Lloyd 他	<ul style="list-style-type: none"> Need to fill ten 50-minute slots of lectures (you may take 2 times slots if you need more time) on anything in your area of expertise that involves perspectives on global leadership, and provide guidance in presentation skills in English. This is a 2-day program (Paid)

2021年度【宮崎国際大学地域連携事業】

宮崎県立都城西高等学校訪問実施要領 MIYAKONOJO NISHI HIGH SCHOOL ENGLISH DAY

(フロンティア科2年生 36名)

① 目的・目標	県内の特色ある大学と連携した少人数研修を行うことにより、次の2点について達成することを目的とする。 (1) 高校現場では体験できない先進的研究や講義などに触れさせる。 (2) 自己の進路実現に向けた興味・関心や知的探究心をよりいっそう喚起する。			
② 日時	2021年11月9日(火) 9:20 - 15:30			
③ 場所	宮崎国際大学 食堂			
④ 訪問者	都城西高等学校 2年生 36名 引率: 松永 健(マツナガ タケシ)、長崎智子(ナガサキトモコ) 参加者合計 38名			
⑤ 訪問の内容	特別文系及び理系授業を受講することにより、宮崎国際大学の授業を体験する			
⑥ 到着時間	Time	Room	Details	
	9:20	食堂	バス到着・Arrival(送迎・Staff Meet the Bus): 原田	
⑦ 開会式	9:30~9:50	食堂	開会式・Opening Ceremony (司会: 外山) MIC 大学代表挨拶 学長 村上 昇 都城西高校生徒代表挨拶 中村 愛海(ナカムラ アクア)	
⑧ 授業見学	9:50~10:35 (45 min)	2-204	GSC102-1 Introduction to Natural/Life Science (2-204) Melody Mugerza	4人 永春
		2-102	ENG 1-1 English 1 (2-102) Marc Waterfield	6人 永春
		1-CCR2	SSC107- Introduction to the Tourism Industry (CCR2) Craig Yamamoto	6人 秋田
		1-221	ASN355-1 American Thought and Culture [1-221] Hironori Hayase	6人 秋田
		2-203	HUM107-1 Introduction to Visual Arts (2-203) William Hall	4人 山本
		2-CCR4	IDS312-1 Global Leadership Seminar [CCR4] Manh Tien Vu	5人 山本
		1-423	PSY310-1 Cognitive Psychology (1-423) Aya Kasai	5人 香川
⑨ 先輩体験談	10:40~11:00	1-321	体験談・Sempai - Kohai Discussion time 2nd year student: Nakamura Umi	
⑩ 模擬授業 I	11:10~11:55 (45 min)	1-425 1-523	理系講義: 講師: Walker, Lloyd 文系講義: 講師: Head, Ellen	藤江 香川
⑪ LUNCH	12:00~12:50	自由	LUNCH (大学キャンパス内)	
⑫ 模擬授業 II	13:00~13:45 (45 min)	1-425 1-523	理系講義: 講師: 田川 一希 文系講義: 講師: Walker, Lloyd	藤江 香川
⑬ 大学説明	13:55~14:15	食堂	大学説明・Explanation of MIC: ロイド	
⑭ ツアー	14:25~14:50	食堂~食堂	キャンパスツアー(図書館を中心に)・Campus tour (Library, etc.)	ロイド
⑮ 閉会式	15:00~15:20	食堂	閉会式・Closing Ceremony 都城西高校生徒代表挨拶 松窪みず希(マツクボミズキ) 都城西高校教員代表挨拶 松永健(マツナガタケシ) 先生 MIC 代表挨拶 ウォーカー副学長・地域連携センター長	
⑯ 出発	15:30		バス出発・Bus departs (見送り: 矢野・北林、その他教職員)	

グループ分け

2-204	田中 上小牧 丸目 東星那
2-102	井上 上村 三島 永吉 河野 徳重
1-CCR2	松窪 前田 田畑 水上 利光 杉村
2-203	岩元 小薮 岐本 西河
1-221	大久保 伊尻 種子田 森岡 吉國 木之下
2-CCR4	内立輪 中村 上田 工岡 ナフィサ
1-423	吉田 四元 瀬戸 大城 滝澤

2021年度【宮崎国際大学地域連携事業】

大宮中学校宮崎国際大学で学ぶ多文化理解実施要領
OMIYA JUNIOR HIGH SCHOOL MIC MULTICULTURAL UNDERSTANDING PROGRAM

(2年生 37名)

① 目的・目標	宮崎国際大学での異文化体験プログラム		
② 日時	2021年12月21日(火) 9:45 - 12:00		
③ 場所	宮崎国際大学 食堂等		
④ 訪問者	大宮中学校 2年生 37名 引率: 2名(ヨシノ ケイコ先生, イノウエ ジョウジ教頭先生) 参加者合計 39名		
⑤ 訪問の内容	宮崎国際大学の留学生との交流を通して多文化文化への理解を促進する		
⑥ 到着時間	Time	Room	Details
	9:40	食堂	バス到着・Arrival (送迎・Staff Meet the Bus): 原田
⑦ 開会式	9:45~9:55	食堂	開会式・Opening Ceremony (司会: ロイド) MIC 大学代表挨拶 学部長 Anderson Passos 大宮中学校生徒代表挨拶 クロキ カスミさん
⑧ 異文化体験①	10:00~10:25 (25 min)	食堂	異文化体験① (Vietnam) 異文化体験② (Cameroon) 異文化体験③ (Korea 1) 異文化体験④ (Korea 2) 異文化体験⑤ (USA) 1. 国紹介 (10分) 2. 自国文化の最も誇らしい点 (2分) 3. 自国でのクリスマスの過ごし方 (3分) 4. 簡単な外国語会話 (挨拶等) (10分)
⑨ 異文化体験②	10:30~10:55 (25 min)	食堂	異文化体験① (Vietnam) 異文化体験② (Korea 1) 異文化体験③ (Korea 2) 異文化体験④ (USA) 異文化体験⑤ (Jamaica) 1. 国紹介 (10分) 2. 自国文化の最も誇らしい点 (2分) 3. 自国でのクリスマスの過ごし方 (3分) 4. 簡単な外国語会話 (挨拶等) (10分)
⑩ 異文化体験③	11:00~11:25 (25 min)	食堂	異文化体験① (Vietnam) 異文化体験② (Korea 1) 異文化体験③ (Korea 2) 異文化体験④ (USA) 異文化体験⑤ (Jamaica) 1. 国紹介 (10分) 2. 自国文化の最も誇らしい点 (2分) 3. 自国でのクリスマスの過ごし方 (3分) 4. 簡単な外国語会話 (挨拶等) (10分)
⑪ ツアー	11:30~11:50 (20 min)	食堂~食堂	キャンパスツアー (図書館を中心に)・Campus tour (Library, etc.)
⑫ 閉会式	11:50~12:00 (10 min)	食堂	閉会式・Closing Ceremony 大宮中学校生徒代表挨拶 カワサキ リンさん MIC 代表挨拶 ウォーカー副学長・地域連携センター長
⑬ 出発	12:00		バス出発・Bus departs (見送り: 矢野・北林、その他教職員)

グループ分け

2021 年度【宮崎国際大学地域連携事業】

宮崎南高等学校グローバルイングリッシュデー実施要領
MIYAZAKI MINAMI HIGH SCHOOL GLOBAL ENGLISH DAY PROGRAM

① 目的・目標	多文化理解、英語によるディスカッション及びプレゼンテーション能力を身に着けること。
② 日時	2021年10月28日(火) 9:00 - 16:15
③ 場所	宮崎国際大学
④ 訪問者	都城西高等学校 2年生 84名 引率：松永 健(マツナガ タケシ)、長崎智子(ナガサキトモコ) 参加者合計 38名

8:50 到着・Arrival (現地集合) ※2号館のロビーに8:50までに集合
※自転車置き場は到着の際に案内いたします。

Time	Instructor(s) & Classroom	Instructor(s) & Classroom
9:00 - 9:15	開会式・Opening Ceremony (4号館 35教室) 学長挨拶・Greetings from the President 南校生徒代表挨拶・Greetings from Minami HS student representative 南校教員代表挨拶・Greetings from Minami HS teacher representative	
9:15 - 9:45	リベラルアーツと MIC の学びについて Explanation about MIC and global education (4号館 35教室)	
9:50 - 10:30	大学生によるカルチャショックと異文化理解に関する発表・Culture shock and cross-cultural understanding (International and Japanese MIC Students) Nami Terazaki, Evan Muir, Patricia Yamaguchi, Sung Yeon Kim	
10:35 - 11:35	大学生とグループディスカッション・Group discussion with MIC students Topic: My dreams and plans for the future Momoka Nagasawa, Mei Mukai, Nami Terazaki, Evan Muir, Patricia Yamaguchi, Sung Yeon Kim	
	Group 1 (4号館 35教室)	Group 2 (4号館 36教室)
11:35 - 12:15	LUNCH (4号館 35・36教室)	
12:15 - 12:45	How to make a good presentation (4号館 35教室) 良いプレゼンテーションを行うために	
12:45 - 13:30	Poster making time ポスター作成と指導	
	Group 1 (4号館 35教室)	Group 2 (4号館 36教室)
13:30 - 14:30	Presentation time 発表の時間	
	Group 1 (4号館 35教室)	Group 2 (4号館 36教室)
14:35 - 16:00	南高校生徒企画：英語の効果的学習法・Minami HS Student Project	
	Group 1 (4号館 35教室)	Group 2 (4号館 36教室)
16:00	閉会式・Closing Ceremony (4号館 35教室) MIC 代表挨拶 (Passos) 宮崎南高校 生徒挨拶	

Serina Yano
Haruka Tsuruta
Meena Gurung

資料 2 - 4

県内企業からの本学学生への奨学金制度（返還不要）

未来奨学金 奨学生募集要項

「未来奨学金」は、経済界の支援によって今年創設されました。

この奨学金は、学生に返済の必要のない応援給付金による経済的支援を行うことで、目まぐるしく変化する時代において、日本の将来をしっかりと見据えて活躍できる若者を育てる一助とし、夢と希望を持った若者の思いを実現したいとの願いが込められています。

1. 奨学金概要

- (1) 給付月額：5万円（年額60万円）
- (2) 給付期間：1年間
- (3) 給付方法：毎月、当月分を本人名義の金融機関口座へ振込みにて給付
※4月～7月分は8月分と合算して給付

2. 応募資格

以下のすべてに該当する者

- (1) 宮崎国際大学に在学中の者（2年・3年・4年対象）
- (2) 「未来奨学金」創設の主旨を理解し、勉学への意欲及び社会への貢献意欲が高く、向学心の旺盛な者。
- (3) 1年次・2年次・3年次の修得単位数が履修制限単位の80%以上であること。
- (4) 1年次・2年次・3年次のGPAが3.5以上であること。
- (5) 国際教養学部においては、TOEICスコアを加味する。

※日本学生支援機構を含む他の奨学金との併用可としますが、月々支給される給付型奨学金（学生支援機構、グローバルスカラシップ・成績優秀）受給者は除きます。家計基準の制限はありません。上記の(2)に相当する資格者で、例えば、コロナ禍で急に家庭の生計が困難した場合などは、その旨を応募書類に記載しても構いません。

3. 募集概要

- (1) 募集期間：2021年7月1日（木）～7月10日（土）
- (2) 一次選考：書類（志願理由書 A4用紙で1枚）および学業成績
二次選考：面接（一次選考通過者のみ）
- (3) 募集人数：4名
- (4) 選考結果：メールにて個人に通知

4. 志願理由書提出先及び問い合わせ先

宮崎国際大学学生部

5. 選考・採用内定

奨学生選考委員により選考を行います。二次選考の選考結果（採否）は、7月末日までに本人に通知します。

6. 採用後の手続き

採用者は、前期（9月末）、後期（2月末）までに、受給報告書を学生部に提出してください。受給報告書には、本奨学金を得ての成果を書いてください。

7. 奨学金の停止

下記のいずれかに該当する場合は、該当月より奨学金は停止となります。

- ①休学・転学部・退学又は除籍となったとき
- ②学則による懲戒処分を受けたとき
- ③学業成績が不良のとき
- ④提出した資格証明の虚偽が判明したとき
- ⑤その他特待生として適当でないと認められたとき

8. 報告書の提出

- (1) 振込先情報の提出
奨学金の振込先金融機関口座情報（本人名義に限る）を所定の方法により、指定する期日までに学生部へ提出してください。
- (2) 確認書（誓約事項及び同意事項）の提出
記載事項を確認し、本人及び保護者等が署名のうえ、指定する期日までに学生部へ提出してください。



宮崎国際大学

